



〔2022 研究成果トピックス〕

長野県の農業関係の試験場が令和4年度に開発した 新品種・新技術を紹介します

県内の農業・畜産関係の5試験場が令和4年度に開発した新品種・新技術等の中から、以下の4つの主な成果を「2022 研究成果トピックス」として紹介します。

【新品種】^{ちょうやこう}ジュース用トマト「長・野交59号」

多収で、果汁の品質が優れる新品種「長・野交59号」を開発しました。

※リーフカバー
葉の茂りで果実を覆う性質のことです。



リーフカバー※を形成した収穫初期の様子

- 果汁の糖度や、リコペン※含量が安定して高い
- リーフカバーを形成しやすく、果実の日持ち性が優れる



果実の比較
長・野交59号 なつのしゅん

※リコペン(リコピン)：トマトの色素で、抗酸化作用がある機能性成分

【新技術】日本すもも「シナノパール」の果肉 ^{しんしんよう}褐変を軽減する新梢管理技術

日本すもも「シナノパール」において、生育中に果肉が褐変して落果する障害が発生しました。



果肉褐変障害の様子
上：果実表面
下：果肉内部

この現象を解明し、新梢※の管理などを適正に行うことで、この障害を軽減できることを確認しました。

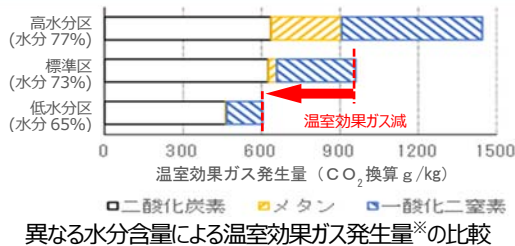
※新梢 その年に新しく伸びた枝のことです。

【障害を軽減する管理技術】

- 発芽後、芽かき
- 5月、新梢を半分程度に切り詰め
- 6月以降、伸びすぎた枝の除去

【新技術】もみ殻添加による温室効果ガスの発生を抑制した堆肥製造技術

もみ殻を混和して家畜排せつ物を堆肥化する際、水分を少なく管理すると、標準(73%水分)に比べて低水分(65%水分)で温室効果ガスの発生が3~4割減ることがわかりました。



※堆積開始時の有機物 1kg あたりの発生量

【新技術】イネ縞葉枯病防除の要否の判定と ^{なえばこせやくざい}苗箱施薬剤※による防除技術

この病害について、その年の発生状況から翌年の防除要否を判定する目安を確立しました。

目安を超えた場合、苗箱施薬剤を使うことで効率的な防除が可能です。

※苗箱施薬剤
苗箱で苗を育てる時に使う農薬です。



イネ縞葉枯病の主な特徴



詳しくは、農業関係試験場ホームページの研究成果トピックス「農業技術レーダー」をご覧ください。
<https://www.agries-nagano.jp/research> (右の二次元バーコードからもアクセスできます)

確かな暮らしを守り、 信州からゆたかな社会を創る

しあわせ信州創造プラン 3.0

~大変革への挑戦「ゆたかな社会」を実現するために~

[長野県総合5か年計画推進中]

(問合せ先)
担当 長野県農業試験場
企画経営部
大池、櫛本
TEL : 026-246-2412 (直通)
FAX : 026-251-2357
E-mail
nogyoshiken@pref.nagano.lg.jp

(問合せ先)
担当 長野県農政部
農業技術課研究普及係
百瀬、細井
TEL : 026-235-7220 (直通)
FAX : 026-235-8392
E-mail
nogi@pref.nagano.lg.jp